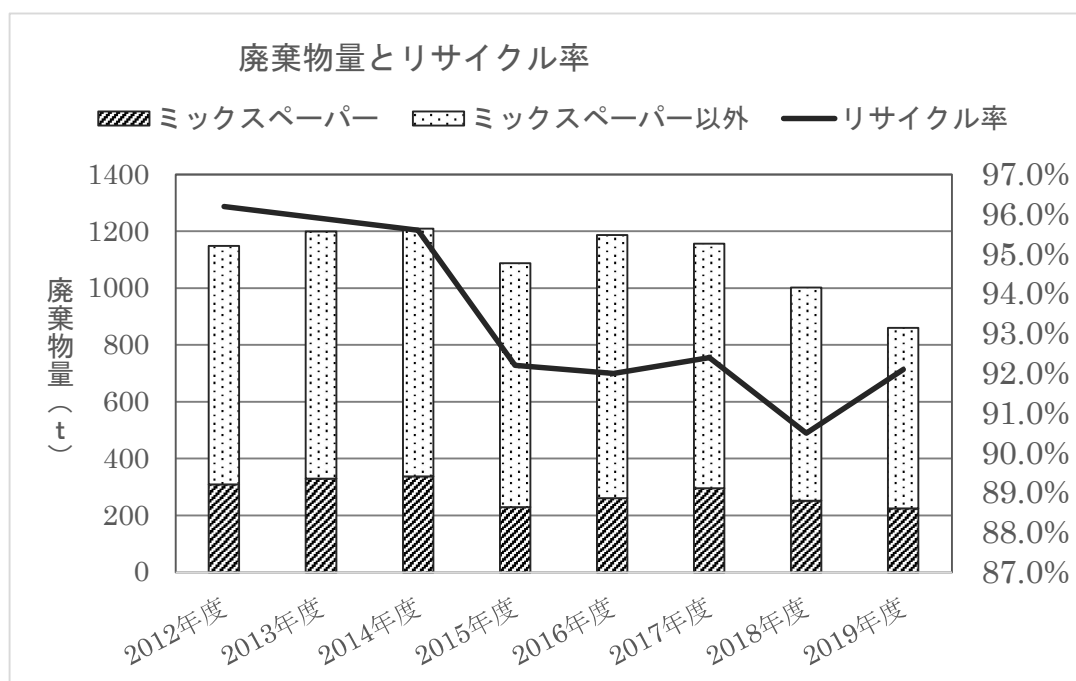


ごみの再資源化

【東京】

ごみ減量及び再利用の現状は、可燃物の生ごみ・紙管等の再利用を実施し、紙類は95.1%、可燃物は91.7%のリサイクル率でした。びん、缶、ペットボトルは、ほぼ再利用しています。

2020年度は、ごみ排出量については、前年度実績に対し3%減量を、可燃物のリサイクル率は92%を目標とします。そのために、「ごみ分別・減量」を社内およびテナントにPRし、日常業務のペーパーレス化を積極的に進めます。資料配布を控え、電子データのプリントアウトを極力少なくします。紙類は引き続き、ミックス古紙回収時に一般廃棄物が混入されていたのを分別基準を改め、より一層の再資源化に努め、社員の協力もあって微量ながら効果は出ています。



東京本社の本館や新館の廊下や室内の分別容器、リサイクルボックスに捨てられたごみは、新館地下1階の「資源活用センター」に集積されます。ここで紙類、不燃物、プラスチックごみ、生ごみなどをさらに細分化した種類に分別収集をして保管します。このごみは再生資源物ですので、その種類ごとに回収業者を通じて最終的な持ち込み先に渡します。

また産業廃棄物は処理を業者に委託する際に、マニフェスト(産業廃棄物管理票)に、産業廃棄物の名称、数量、運搬業者名、処分業者名などを記入し、産業廃棄物の流れを自ら把握・管理するマニフェストシステムというしくみが定められています。処理業者から処理業者へ、産業廃棄物とともにマニフェストが渡されて、それぞれの処理終了後に、各業者から処理終了のマニフェストを受け取ることで、委託内容どおりに廃棄物が処理されたかを確認します。

東京本社的一般廃棄物

種 類				年度区分		前年度実績(31年 4 月 ～R2年 3 月)							
						発生量 (A)		処 理 区 分				再利用率 (B÷A×100)	
								再利用率(B)		廃棄量(C)			
一 般 廃 棄 物	可 燃 物	紙 類	①機密文書(一括処理文書)等	6.7	t	6.7	t	0.0	t	100.0	%		
			②雑誌、パンフレット、色付き紙	29.2	t	29.2	t	0.0	t	100.0	%		
			③新聞紙、折込チラシ	420.9	t	420.9	t	0.0	t	100.0	%		
			④段ボール	32.8	t	32.8	t	0.0	t	100.0	%		
			⑤ミックスペーパー	225.5	t	225.5	t	0.0	t	100.0	%		
			⑥その他(再生に適さない紙類)	36.8	t	0.0	t	36.8	t	0.0	%		
		紙 類 小 計(①～⑥の合計)			751.9	t	715.1	t	36.8	t	95.1	%	
		そ の 他	⑦生ごみ(残飯、茶殻、吸殻等)	69.2	t	37.8	t	31.3	t	54.7	%		
			⑧木、草、繊維等	4.3	t	4.3	t	0.0	t	100.0	%		
		そ の 他 小 計(⑦+⑧)			73.4	t	42.1	t	31.3	t	57.3	%	
	可 燃 物 合 計(①～⑧の合計)…(a)			825.3	t	757.2	t	68.1	t	91.7	%		
	不 燃 物 ・ 焼 却 不 適 物	再 生 利 用 物	⑩飲食用びん類	1.3	t	1.3	t	0.0	t	100.0	%		
			⑪飲食用缶類	7.2	t	7.2	t	0.0	t	100.0	%		
			⑫ペットボトル	23.5	t	23.5	t	0.0	t	100.0	%		
			⑬食用油	0.0	t	0.0	t	0.0	t	0.0	%		
		⑭弁当がら			0.8	t	0.8	t	0.0	t	0.0	%	
		⑮その他 (PPバンド・PPフィルム)			2.5	t	2.5	t	0.0	t	100.0	%	
		不燃物・焼却不適合物合計(⑩～⑮)の合計…(b)			35.4	t	35.4	t	0.0	t	100.0	%	
		⑯特定の事業活動に伴う可燃物…(c)				t		t		t		%	
総合計 (a) + (b) + (c)				860.7	t	792.6	t	68.1	t	92.1	%		

【大阪】

大阪本社がある中之島フェスティバルタワー（NFT）で発生する廃棄物の量はビル全体で計測しているため、大阪本社のみデータは把握できません。NFT全体で廃棄、再資源化したごみの量は表のとおりです。

■中之島フェスティバルタワーで発生した廃棄物の量と資源化率（2019年度）

朝日ビルディング調べ

	廃棄した 量 トン／年 (A)	再生に回 った量 トン ／年 (B)	合計 トン／年 (C)=(A)+(B)	2019年度 資源化率％ (B／C×100)	2018年度 資源化率 ％
OA紙		58	58	100%	100%
その他の紙(OA紙以外)		121	121	100%	100%
機密書類(シュレッダー紙含む)※		65	65	100%	100%
新聞紙(折込広告含む)※		46	46	100%	100%
雑誌※		31	31	100%	100%
段ボール		93	93	100%	100%
再生可能な紙類の合計		414.0	414.0	100%	100%
再生に適さない紙	73		73	0%	0%
①紙類の合計	73	414.0	487.0	85%	84%
厨芥(茶殻・残飯・魚あら等)	131		131	0%	0%
びん		21	21	100%	100%
ガラスくず等(ガラス、コンクリート、陶磁器)	0.5		0.5	0%	0%
缶		3	3	100%	100%
金属くず		0.9	0.9	100%	100%
プラスチック類(ペットボトル・ビニール袋等)	14	50	64	78%	54%
その他一般廃棄物(上記以外のごみ)	14		14	0%	0%
その他産業廃棄物(上記以外のごみ)	24.5	0.7	25.2	3%	2%
②紙類以外の合計	184.0	75.6	259.6	29%	22%
総合計(①+②)	257.0	489.6	746.6	66%	62%

※:大阪本社から排出される機密書類、新聞紙、雑誌は含みません。44ページの表をご参照ください。

プラスチック類の資源化率が78%と、大きく落ち込んだ前年度の54%から回復しました。プラカップやお弁当容器を捨てる際の注意を、タワー全体で呼びかけていただいた結果、廃棄に回された量が前年比で半減(▲16トン)しました。

上記以外に、機密書類、新聞、雑誌等は、大阪本社が独自に回収・廃棄、リサイクルしています。次表のとおり、資源化率は100%でした。

■朝日新聞大阪本社の廃棄物と資源化率(2019年度)

大阪管理部調べ

	廃棄した量 (トン/年) (A)	再生に回った量 (トン/年) (B)	合計 (トン/年) (C)=(A)+(B)	2019年度 資源化率% (B/C×100)	2018年度 資源化率 %
機密書類(溶解処理)	0	15.0	15.0	100%	100%
新聞紙・雑誌類	0	128.7	128.7	100%	100%
合計	0	143.8	143.8	100%	100%

■使用済み食用油の回収(2019年度)

中之島フェスティバルタワーおよび同ウエストでは、株式会社レボインターナショナルと契約し、ホテルや飲食店から出る使用済み食用油を回収してバイオディーゼル燃料に再生してもらっています。19年度の回収量は合計22,463Lでした。再生されたバイオ燃料は一部の新聞輸送車に使用しています。

【西部】

西部本社社屋(リバーウォーク北九州)から出されたごみは可燃物が6tで前年比15.5%の減でした。びん・缶・ペットボトルの0.9t(18.2%減)、古紙の2.7t(12.5%増)は100%再資源化しています。生ごみは地下1階の共用保冷庫、それ以外は同じ地下1階の朝日棟用分別用容器に搬入し、分別ごみは市の委託を受けた業者が分別種別ごとに毎日回収しています。

福岡本部の一般ごみは「紙、びん・缶・ペットボトル、燃えないごみ」などに分別して出し、朝日ビルディングが処理。プリンタートナー等は業者引き取り。また、引っ越しやレイアウト変更時の什器類処分についても、業者引き取りの方法をとっています。

西部本社、福岡本部共に産業廃棄物についてはマニフェスト管理しています。

【名古屋】

名古屋本社の2019年度に発生した廃棄物は78.0tで、18年度比で1.8t減となりました。廃棄物のうち大半が紙類で、OA用紙3.7t(前年比▲0.1t)、新聞・雑誌・段ボール57.0t(同+1.8t)、機密書類0.4t(同▲1.6t)、雑古紙6.6t(同▲0.3t)の計67.7t(同▲0.2t)でした。これらの紙類については資源化率100%。雑古紙は年々増えていますが、これについては、分別が適切に行われ、リサイクル率が上がってきています。全体の資源化率は前年度と比較して3.4%アップの89.5%となりました。今後もごみの減量と再資源化のための分別を呼びかけていきます。

【北海道】

支社のごみはさっぽろ創世スクエアへの移転に伴い、自社での回収、再資源化から、原則としてビル管理会社を通すことになりました。支社では通常の入居オフィスと同様に、ごみの分別、プラスチック容器・ペットボトルやびん・缶のリサイクルを行うことに加えて、業務上大量に発生する古新聞、紙ごみについてはビルの清掃業者とは別に独自にリサイクル業者に回収を依頼し、売却しています。